

■■■ 新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。 ■■■

◆理事からのご挨拶

新年おめでとうございます。

セヘ ポンマニ パドゥプシヨ（新春の福をたくさんうけとってください）。

今年は、大きな入管難民法（出入国管理及び難民認定法）の改定があり、外国人の大量入国がはじまることが予想されます。しかし改定の内容には、人権上多くの課題があり、これから日本に来る外国人、いままで日本に住んでいた日本人・外国人の未来の幸福につながるのかという懸念することばかりです。

地に足をつけ一つ一つ木を育てるように事業を育ててきたKFCが、だからこそ出来ること、なすべきことを考え、時代に流されず本当に必要な人の権利を守り、皆が上を見て生きることが出来る取り組みを進めたいと考えます。

いままで力を貸していただいた方々により多くの願いをすることになると思います。

今年もよろしくお祈りします。（理事長 金 宣 吉）

セヘポンマ〜ニパドウセヨ!! 明けましておめでとうございます。去年も大変忙しかったですね。外国人市民の自立支援を基本にして、介護、日本語支援、奨学金事業、子ども支援など、それぞれの持ち場で頑張ってこられた皆さん、本当にお疲れ様でした。去年12月に成立した実質「移民法」は、マイノリティの人権や生活の酷い実態を改善することなく、単に労働力を補う内容となっております。人を計算ずくの物扱いにするのであれば、日本の将来に、とても良くない結果を招くと思われまます。KFCにとっても、やるべき仕事が増えるだろうと思います。地に足をつけながら、現場からの声を上げて行かなければなりません。今年も、明るく元気に一緒に頑張っていきたいと思います!!（副理事長 李 圭 燮）

明けまして、おめでとうございます。

昨年は、KFCみんなのダイニングでボランティアを続けながら、高校でKFCの新しい教育プログラムを行ったり、大学でいくつかの講演を引きうけたりしました。内容は、日本社会の差別・偏見とその対策、子どもへの日本語教育、わたしの祖父母と自分の名前へのこだわりについてなどです。

これらの取り組みを通じて、わたしは改めて学校教育の重要性を感じました。よい教育プログラムを提供すれば、多くの日本人が課題を理解し、不平等や不公正を感じ、できることを考えてくれます。それは、心強いことです。伝えることを諦めず、方法を工夫し、社会を変えていきましょう。今年もよろしくお祈りします。（理事 片田 孫 朝日）

明けましておめでとうございます。日本社会の転換点になるような法改正がされました。これから外国人労働者を通じて日本における「人権」や「労働」について、走りながら考えることになるのでしょうか。この国が外国人をどう扱うかは「自分がどう扱われるか」に必ず直結しています。そのことを忘れず、もう一度「人間が譲ってはいけないもの」を確認する年にしたいものです。今年もよろしくお祈りいたします。（理事 野崎 志帆）

新入管法が成立し、従来の外国人労働者の人権をめぐる劣悪な環境が改善されぬまま、日本社会は4月から新たな段階に入ります。政府の対応は非常に不誠実なものですが、この間、野党の調査やメディア報道によって、技能実習制度のブラックな状況が明るみに出つつあるのも確かです。問題の根の一つは、外国人住民を二等市民とみなしたがる日本社会の思想にあります。この思想は近代150年の歴史の中で形成され、固定化されたものです。この思想をどのように組み替

えていくことができるのか、正念場の一年になりそうです。今年もよろしくお願い申し上げます。

(理事 樋口 大祐)

新年あけましておめでとうございます。訪問看護ステーションはれを開設し、2回目の正月を何とか迎えることが出来ました。今年も、緩やかに過ぎていったらいいなと思っています。2040年の多死化を迎えるにあたり、在宅分野での看まもりに、国あげての政策誘導が始まっています。昨年からはじめたグリーン（悲嘆）研修を、引き続き今年も受講していこうと思っています。個人的には、昨年の3月に読んだ『卡子(チャーズ)～中国建国の残火～』（遠藤誉著、朝日新聞出版）に感動し、ぜひともご本人に会いたいと思っています。年齢の有限を覚地しながら、今年も多文化共生のテーマを深めていきたいと思っています。

(理事 山根 香代子)

あけましておめでとうございます。昨年12月に入管法が改正され、新たな外国人受入制度が発足します。5年間で34万人ともいわれる外国人の受入が開始されようとしています。しかしながら、今回の改正では、日本に居住することとなる外国人の基本的な人権の保障の側面が不十分であり、賃金差別のおそれや職場移転の自由の制限、家族の帯同の禁止による家族との分離などの問題点が未解決のままです。多文化共生の視点に立った法制度の検討が不十分です。これからも定住外国人の権利擁護のために、KFCの活動に貢献できるようがんばります。今年もよろしくお願い申し上げます。（理事 吉井 正明）

■■■KFC日本語プロジェクト■■■

◆研修会「外国人の生活を知り何ができるか考えましょう！」に参加して

第1回 11月24日（土）

講師 戎カリナさん・出身国フィリピンハティタンガさん・同ベトナム

日本在住20年のカリナさんから「日本へ来て困ったこと、嬉しかったこと」を伺い、フィリピンコミュニティについても知ることができました。日本語が全く話せない、文字も読めない他国での生活の不自由さや困難さは並大抵のものではないと再認識しました。カリナさんは持ち前の積極性と明るさで努力を重ね、子どもさんの入学とともに小・中学校の多文化共生サポーターとして活躍されています。

介護士として働く在住37年のガさんからは「神戸在住のベトナム人の背景と現状」をお聞きしました。難民として日本へ来られ現在の生活を得られるまでの辛苦は想像を絶します。文化の壁については、その国ならではの背景があり、受け継がれているものである。お互いの文化を理解し、尊重し合うことが大切だと強調されました。

第2回 12月1日（土）

講師（公財）神戸国際協力交流センター運営課長 小林真由美さん

（公財）兵庫県国際交流協会外国人県民インフォメーションセンター相談員西語担当 村松紀子さん 同 中国語担当 白リンダさん

業務内容や相談内容の事例を挙げて説明して頂きました。神戸市の外国人人口は年々増加し、国籍も144ヶ国と多岐に亘ります。「外国人にとって暮らしやすい町づくり」をモットーに運営されており、我々が外国人から相談を受けたら、一番に頼れる場所だと思いました。

何が自分にできるか？KFCに参加して2年半、日本語の難しさを日々感じています。自分の言いたいことが伝えられているかどうか迷う日々です。外国人とともに勉強させて頂いている現状です。まずは今のボランティアを細々ながら継続することでしょうか。今回の研修では、相談者、相談担当の双方から貴重な話を聞くことができ、実態をより詳しく知ることができました。意見交換では、参加者の幅広い活動に頼もしいアドバイザーを得た感があります。有意義な機会をありがとうございました。（土肥 富子）

■■■ KFC外国にルーツを持つ子どもの学習支援 ■■■

◆6年目を迎えたはいず

三宮の賀川記念館でプレスクールを開き、外国にルーツを持つ子どもたちの学習支援を始めてからはや6年が過ぎようとしています。プレスクールにきたアフガニスタンからきた子どもは、6年生になりもうすぐ卒業です。最初は中国から来て間もない子、アフガニスタンの子ども、パキスタンからの子ども3人、母親2人と、ボランティア5人でしたが、今は、中国からきた子ども11人、フィリピンにルーツを持つ子ども3人、韓国から来た2人で17人になりました。ボランティアに来て下さる方は、最初からの3人に、ほぼ定期的に来て下さる4人、不定期ですが来てくださる学生の3人、中国人牧師の方、高校生と増えていますが、かなり厳しい状態が続いています。KFCスタッフにSOSを出すこともあります。ボランティアに来て下さる方を待っています。

例年見られるのが7、8月に日本に来るケースです。中国人の友達からの紹介やネットで見ても夏休み中に来られて日本語指導を中心に学習することも増えています。今年は、通っている子どもたちが連れて来てくれるケースが2件ありました。子どもたちにとって日本語を学習し、学校の勉強に役立つ場と思えるようになってきたことがうれしいです。教室で困っている子どもへの支援に少しでもつながればと思います。

3月には、6年生が6人卒業します。KFCの中学生の教室になかなかつなげられないのが難しいところですが、中央区のチャオやYWCAとも協力していければ、と考えています。（はいずコーディネーター 小城 智子）

■■■ ハナの会 ■■■

◆紅葉狩り

須磨離宮公園への紅葉狩りが11月20、21、22日の3日間にわたりおこなわれました。紅葉が見たいとの要望があり、急遽実行しました。参加は自由でしたが、22日は全員が参加しました。紅葉が赤黄緑と色鮮やかでとても綺麗でした。また温室では、ランの花が色とりどりに映えて見えました。天気が良くて寒くなかったのも、とても過ごしやすかったです。噴水が風に吹かれて虹のように見えて綺麗でした。おやつタイムは、お茶とお菓子で話に花がさいていました。時間があっという間に過ぎデイへの帰路につきました。また来年、全員で行けたらいいですね。（グエン ティ ガ）

■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

◆帰国者とともに「ひょうご多文化共生のつどい」の運動会に参加して

「ひょうご多文化共生のつどい」は、神戸中華同文学校で11月11日の日曜日に行われました。舞台、運動会、エスニック料理等の多様なプログラムがあつて、好天にも恵まれ、3,200名と多くの方々が参加されました。

KFCからは実行委員として、金宣吉理事長が舞台・体験ワーキング部会リーダー、私はスポーツワーキング部会の委員として参加しました。そして、前日の会場設営には、KFC中国残留邦人帰国者交流会ボランティアの高野牧人さん、当日はKFCスタッフの相原洋子看護師もボランティアとして参加しました。舞台にはいつもお世話になっている方々がたくさん出演し、屋台に

もKFCのスタッフや関係者が多数関わりました。そして、運動会にはKFC帰国者交流会の方々がチームとして参加しました。中国残留邦人帰国者の方々はすべての競技で、年齢を忘れたかのように、小学生や青年たちに負けない気持ちで一生懸命走りました。西宮から朝早くに来て運動会に参加された中国残留邦人帰国者一世の中本さんは、バケツリレーの時に全力疾走して水汲みをしました。焦ってバケツに半分しか水を入れられず次の方へ渡してしまいました。障害物競争に参加された二世の李さんはパンをうまくくわえることができず、応援団に大変受けていました。綱引きに参加された男性陣、そのほかの競技項目に参加された方々の懸命さは尋常のものではなかったです。このような楽しい国際的なイベントに、KFCが支援者や帰国者とともに参加できたことはとても有意義なことだと思いました。（フフデルゲル）

◆11/25ふたば文化祭舞台出演の感想

私たちは歳をとってきていますが、中国の広場ダンスを踊り出すと、夕焼けのように真っ赤に燃えて、胸が熱くなります。そよ風に吹かれ、美しい歌声が聞こえ、みんなの笑い声が絶えません。みんなの踊る姿に陶醉している時に、自分の娘時代を思い出し、鮮やかな衣装を身に纏い、本当に嬉しい限りです。踊れば踊るほど勇気と自信が湧いて、とても楽しみました。これからももっと堂々と楽しく踊りたいと思います。（宋 淑琴）

広場ダンスを通して、ご覧のとおり私たちは歳をとったおばさんではなく、若い娘のようにいきいきとしています。踊り出すと、みんな活発で、たいへん楽しく、美しく感じます。赤い出演服を身に纏い、歳を忘れるほど、18歳の頃に戻ったようでした。みんな満面の笑みで優雅に踊りました。おばさんになった自分達ですが、生きれば生きるほど若くなり、美しくなり、若い人の気持ちを保ちたいです。今この時間は私たちの時間で、「今」を充分利用し、毎日を大切に、青春を謳歌したいです。（脇 佐知子）

今回の舞台出演ですが、60歳を過ぎたものの、みんなとても気合いが入り、やる気満々でした。特に劉桂麗さんは最も高齢の74歳ですが、団体意識が大変高く、協力的で団体利益を第一にし、みんなのお手本のように行動されていました。今回の出演はみんなの努力が実り、成功したと思います。出演を通して、私たち帰国者は体が衰えても心は若いままでした。日中両国の文化交流に力を最大限出し、友好関係に役立てれば嬉しく思います。出演された皆さんに拍手を送りたいです。感謝致します。（仲松 蘭子）

■■■ グループホーム・小規模多機能型居宅介護八ナ■■■

◆秋の運動会

11月21日利用者全員（総勢27名）が参加する運動会が開催されました。色とりどりの万国旗の下、「頑張ります」という宣誓により、各階混合で2グループの競争が始まりました。ボール渡し競走・玉入れ・ドーナツ食い競走・踊りの4つの出し物がありました。特に盛り上がったのは、ドーナツ食い競走。物干し竿につるした袋入りドーナツを口でとるというもので、入居したばかりの2名を含め、ほぼ全員が必死に取り組み、大賑わいに。終えた方の中には、早々と食べてしまう方もいましたが、それもお愛敬。締めにはスタッフ同士の競争があり、歓声・大笑いに包まれました。私は、初めて運動会を担当しました。担当者同士で話し合う時間が短く、各自で準備したこともあり、詰め切れない点がいくつかありました。そのうちの一つは、一部の競技が早々に終了し、間を持たせることができなかつたことです。しかし、他のスタッフが盛り上げて下さり、乗り切ることができ、とても有り難く感じました。

戸惑うことの多かった担当者としての初仕事ですが、周囲の協力や利用者様方の笑顔に励まされ、楽しい運動会になりました。

（グループホーム八ナ2階 北詰 瑠美）

■■■ 今後の予定 ■■■

◆今後の予定

■縁会事業 1月29日（火）、2月26日（火）

■KFC帰国者新長田交流会

1月27日（日） 第2回帰国者地域交流会

■多文化子ども共育センター

1月5日（土）～3月23日（土） 就学前の子どものプレスクール事業

於 みなくーる明舞